

令和6年3月 人権コラム

## 人の多様性を考える

日本は古くから独自の文化、伝統を持つ国として知られ、特に「礼儀正しく、勤勉で、協調性が高い」とする特徴が長く受け継がれてきた経緯があります。また、日本では自分の感情や意見を表に出さないことで、相手の気持ちを尊重することも礼儀と考えているよう思います。これは、日本語において丁寧語や謙譲語など相手の立場に配慮した言葉が多くあることからもうかがえます。そして、日本社会は自分を抑えて周囲との調和や一体感を重視しており、企業などの組織における制服や規律にも現れています。これは、他人の気持ちを大切に考えることを起源としているものと思われ、私個人も誇りに思う日本の文化だと考えています。

コロナ禍で「同調圧力」という言葉を多く耳にしました。その根幹には「他人に迷惑を掛けてはいけない」との意味もあったのですが、心身の状態や個人の状況が違う中で、画一的な行動を求められることには、ある種疑問を感じたこともあります。日本社会の特徴が過度に反応してしまい、社会が「皆がこうあるべきだ」と決めてしまうことは寂しいことです。「人種・性別・国籍・障がいの有無・年齢・価値観」等、皆違って当たり前です。違いは個性であり、違うことが能力になることもあります。自分にとって当たり前の事でも、相手にとっては当たり前ではないことが多くあります。相手の立場に想いを巡らし、互いの違いを尊重する事が重要であり、組織にあっても個性が輝く社会が求められています。